

# 例会報告

第2506回例会報告議事録

日時 29年12月19日(火曜日)

場所 川村学園女子大学 我孫子キャンパス内 会議室

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「それでこそロータリー」

ゲスト：バードカービング作家

内山春雄様

ビジター：なし

S.A.A.：依田会員

## 会長挨拶

服部会長



今日が今年最後の例会になります。来年1月9日(火)が新年例会です。先週、白山中学校の駅伝部が全国中学駅伝大会に出場するというので、募金箱を回ささせていただいたのですが、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。後ほど村越幹事の方から結果のご報告があると思います。

2019年のRIの規定審議会にける2790地区としての改訂案について、木更津東クラブと千葉クラブより意見が出されていたのですが、木更津東案を取ということで理事の方にご連絡しました。違うご意見の方がいらっしゃいましたら、例会後に私の方におっしゃっていただきたいと思ひます。

## 親睦委員会報告

倉持会員(代理)



1月9日(火)に角松本店で新年例会を開催いたします。18時30分点鐘です。多くの皆さまのご参加をお願い致します。

国際ロータリーより初詣ツーリングのご案内が届いています。1月18日(木)に茨城県筑波山に行きます。ご興味のある方は事務局にご案内がありますので覧になってください。

## 出席報告

渡邊委員長



21名出席(全員で25名) 出席率84.0%

欠席者が4名。

業務の為:米田会員

## 広報公共イメージ委員会報告

福武委員長

今週の週報のニコニコボックスの金額に誤植がありました。

当日計が17,000円、今期累計が171,000円に訂正させて頂きたいと思ひます。大変失礼致しました。

## 幹事報告

村越幹事



先週、募金箱を回ささせていただいた白山中駅伝部ですが、おととい日曜日の全国中学校駅伝大会で大会新記録57分3秒という記録で見事優勝しました。昨日、うなぎパイを校長先生が持ってきてくださり、我孫子ロータリークラブの皆さんにありがとうございましたとお伝えくださいと承っております。この辺の中学校約100校の東葛駅伝でまず優勝し、その後、県大会でも男子は優勝し、関東大会も優勝し、今回の全国大会でも優勝しました。野島健太くんという3000mで全国2位のすごい選手が1区で1位になり、双子の弟の野島悠太くんが2区でつなぎ、そのまま6区まで18キロ、新記録で優勝しました。女子の駅伝部も千葉県大会で優勝し、全国大会では6位に入賞しました。ありがとうございました。



私は山階鳥類研究所にずっと鳥を彫り続けるために毎日通っています。渋谷南平台に山階鳥類研究所があった頃から毎日通っているのですが、給料が出る訳ではなく、研究員からいろいろ学びながら鳥を彫ってきました。

バードカービングというのはアメリカの開拓時代、その日その日を狩猟で生きなければならなかった時代に、アメリカの先住民がワラで作った鴨のオトリ(デコイ)を使って狩猟しているのを見て、オランダから来た木靴を作る職人達が木で鴨を作ったのが始まりです。

池にその木の鳥を50とか100とか並べると鴨が仲間がいると思い警戒心もなく降りてきて、猟銃で撃ち落とすことができました。大砲で何千羽という鴨を吹き飛ばして狩猟する事もありました。

鴨の羽をむしると羽毛布団の原料になり、肉は塩漬けにしたり、薫製にしたりして樽に詰めて幌馬車に積んで開拓地へ送りました。これがアメリカの開拓時代の最初の職業でした。開拓民のためのタンパク源と夜具を提供するためには沢山のデコイが必要でした。デコイは鴨と一緒に壊れてしまうので、デコイを作る会社がありました。農場で小麦やトウモロコシが取れるようになると鴨猟は下火になり、デコイの会社もあつという間になくなりました。

戦後、平和な時代がやってくるとスポーツハンティングが盛んになり、昔使っていたデコイがまた復活しました。ハンターが自分でデコイを作り、デコイのコンクールが始まりました。そこで優勝するためにデコイはどんどん精巧になっていきました。それから狩猟とは関係なく、小鳥や鷺鷹を彫る人が出てきました。

狩猟で使うものはデコイと呼ばれ、狩猟以外のものはバードカービング(鳥の彫刻)と呼ぶようになりました。

バードカービングという名前ができた頃、日本鳥類保護連盟の職員がアメリカへ仕事で行った時に鳥の彫刻を見て、これは愛鳥教育に使えるのではないかと写真を撮ってきたのが日本でのバードカービングの始まりです。

アメリカでは鳥を殺すための道具だったのが、日本鳥類保護連盟の保護団体が見つけたものだったので、日本では鳥を保護する為のものとしてバードカービングが活用されるようになりました。

皆さんの所に回したアホウドリのデコイは私が作ったものです。

私は小学校5年生位でやっと小学校へ上がれるような未熟児だったのですが、うちのお袋は私に「あなたはいびつなスイカです。甘い所もあるけれども全く欠如している所もあるので、欠如している所はできるだけ隠して、甘い所だけを前に出して生きるしかありませんね」と言いました。

私はひとつの事に何時間も集中できるという特殊な技術は持っているのですが、欠如している所はものすごく沢山あります。

仕事を作る時に私が基本としていることは、誰もやった事がないこと、誰もできないことだけを選んで作って行こうということです。中学1年の時からサラリーマンは絶対勝ち目がないから私にはできないだろうと思っていたので、誰もできないことを見つけて仕事をしようと思っていました。

アホウドリのデコイは絶対にアホウドリの保護活動に役立つと思い、私の独断で作りました。受注生産ではなく、私の気持ちで作る事が多いので、出来上がっても請求書を出す所がありません。

アホウドリは絶滅宣言が一度出ていましたが、来年は約5000羽に復活します。来年はアホウドリにとって目出たい年になります。それでも、私の場合は請求書を出す相手がありません。

今、苦戦しているタッチカービングという鳥の彫刻ですが、盲学校に行つて、これで鳥類学が目が見えなくても勉強できますよ、と自分で持ち込んで話してしまうので請求書が出せなくなります。

いろんなことをやるのですが、世の中のないものを自分で見つけて作り、世の中のために役立ちますよと持ち歩くので、請求書を出す場所が日本にはありません。日本は「素晴らしいですね。ありがたいですね」と言ってくれるのですが、政府はそれに対してお金をつけようとかしません。

ところが、昨年と今年にアメリカの大学で講演したのですが、こうすれば目の見えない人でも鳥類学ができるんですよ、バリアフリーな教室ができるんですよ、と2時間ほど講演したらアメリカはそういうことに敏感で動き始めてくれました。

ハワイの目の見えない子ども達のためにビショップミュージアムという所が私のやっていることを



理解してくれて、ハワイミツスイの仕事が順調にできるようになりました。ただ、ビショップミュージアムという所は寄付金で成り立っているような古いミュージアムなので、このハワイミツスイのバードカービングによる復元の寄付金のコーナーを作ってくれて集まったお金を私だけ使えるようになっていきます。

500万年前にアジアの鳥がどういうわけかハワイ島に飛んで行き、500万年かけて1種類の鳥から50種類の鳥に進化したのがハワイミツスイです。ここにその一番の元になった鳥を彫ってきました。最近やっとDNA的にオオマシコという北海道にいる鳥が100万年前にハワイ島へ行った鳥だったということがわかりました。



このオオマシコという鳥がなぜあんな暖かいハワイ島まで飛んで行ったのか。もともとこの鳥は植物の種を食べる鳥です。ハワイ島にたどり着き、花が年中あるハワイで、花の蜜をなめるように進化した鳥も現れたようです。

進化論というのは非常におもしろくて、たくさんの食べ物があると食べるものに合わせて体が変わっていきます。植物の種に合わせてくちばしが進化します。たとえば固い種を食べると大きなくちばしに進化します。

くちばしの上に柔らかい羽が発達した鳥は、そこに花の花粉が付くようになっていて、花の受粉を助けな

がら蜜をもらいます。

ハワイには100くらい島がありますが、島が違うだけで形態がちよっと違います。

そんな風に50種に進化しましたが、残念な事に現在は17種しか生きていません。ここ100年くらいで絶滅し始めて、その17種すべてが絶滅危惧種です。

50種の中の40種だけはビショップミュージアムの収蔵庫の中に剥製として収蔵されています。博物館なのでいろんな人に見せてあげたいのですが、収蔵庫から出すと色が褪せて劣化が始まるので収蔵庫から出せません。

私が収蔵庫にある剥製を見せてもらってミリ単位で計らせてもらって写真を撮らせてもらえれば、復元できるとビショップミュージアムに伝えると、その技術で是非協力してくださいと大変喜んでくれました。収蔵庫に2週間入って、スケッチさせてもらい、データを取ってきました。

ハワイミツスイの絶滅の原因ですが、残念なことに日本のメジロが関係しています。

ちょうど100年前位に日本から多くの人がハワイの開拓、サトウキビやパイナップル畑を作るために船でやってきました。ハワイの人たちはすごく日本人を尊敬してくれているし、日本人のおかげで今のハワイがあるんだというくらい日本人に一目を置いてくれているのですが、残念な事に、日本人が日本からペットとしてメジロを持ち込んでしまい、籠脱けして一年中気候の良いハワイで爆発的にメジロが増えました。外来の鳥はえてしていろんな菌を持っていて、メジロはメジロ特有のウイルスを持っていました。ハワイのようにその島だけで分化した鳥達は、そういう菌に対する抵抗力が全くありません。

もうひとつ悪い事に、メキシコから蚊も入ってきてしまいました。メジロを刺した蚊がハワイミツスイを刺すとメジロのウイルスがハワイの鳥に入り、死んで行ってしまいます。

ハワイ島には富士山より高い山があるのですが、蚊は1500mまで登って来れます。だから1500m以下にいるハワイの固有種はゼロです。

皆さんハワイへ行くと鳥がいっぱいいることに驚きますが、それはすべて外来種です。昨年2月に学会の招きでハワイへ行った時、朝に小鳥がいっぱいだったので「冬なのに、本当にハワイは楽園みたいですね」と言ったら、まわりにいた鳥類学者が「ここにいる鳥は全部、外来種です」と言いました。ハワイにいる外来種は150種だそうです。あまりにも環境がいいものだから全ての鳥が繁殖できます。

ハワイは一見すると、とても美しく優雅な島ではあるのですが、昆虫学者、植物学者、鳥類学者から見ると、あまりにも今までのハワイでなくなる、負の島だと言われる程危険な状態です。

ビショップミュージアムに訪れた人たちが、ハワイにこういう鳥がいたんだということがわかるように、17種しかいない鳥達をこれから4、5年かけて復元したいと思っています。寄付金が集まってこない、私の制作費が出てこない、よろしくお願いします。

ハワイの王様、カメハメハ初代大王のマントは鳥の黄色い羽だけでできています。8万羽の鳥を捕まえて、45万枚の羽でマントができています。ハワイでは神の化身である鳥の一部をいただいて、王様の命を守るということで黄色いマントを着ていました。

あまりにもマニアックな話で申し訳ありません。何か質問があれば、聞いてみてください。

## 質疑応答

Q:今まで何羽くらいの鳥を作られたのですか。

A:日本には500種くらいの鳥がいるのですが、北海道から沖縄までの博物館に37年納め続けて、たぶん200種くらいは彫ったのではないかと思います。一羽彫るのに、図面を描いて資料を集めて、出来上がるまで一ヶ月かかります。1羽作るのに25万はかかります。ありがたいことに、このところ、中国や台湾からの引き合いが多くなり、特に中国が美術館、博物館に力を入れるような時代になり、一円たりとも値下げ交渉はありません。ダーウィンの進化論の鳥達はひとつ作るのに2年かかるのですが、900万ですと言ったら「それでいいんですか」と言って買ってくれました。日本でこんなことを言ったら、もう次の話には全く進まない状況です。日本は精神的なことをやると構築するのが大変です。



内山先生の作品



内山先生、ありがとうございました。

## 閉会の言葉

服部会長

内山先生、今日はお忙しい中、なかなかうかがえないようなお話しをありがとうございました。大変興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。

今年最後の例会を終了したいと思います。来年1月9日、風邪など引かないようにして新年例会に出席していただきたいと思います。

## ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
服部会長	内山様 卓話ありがとうございました。	1,000円
村越幹事	白山中駅伝部応援ありがとうございました。	1,000円
荒井会員	内山さん 卓話ありがとうございました。	1,000円
伊東会員	卓話ありがとうございました。	1,000円
木村会員	内山様 卓話 有難うございました。	1,000円
小池会員	内山先生 卓話ありがとうございました。	1,000円
佐藤会員	本日は最終回。今朝水が張りました。	1,000円
塩毛会員	バードカービングに乾杯！	1,000円
鈴木会員	卓話感謝。	1,000円
瀧日会員	貴重な卓話をありがとうございました。	1,000円
藤本会員	内山さん 卓話ありがとうございました。 皆様 良いお年を！！	1,000円
当日計		11,000円
今期累計		182,000円

今週の表紙「天神坂」千葉県我孫子市緑1丁目9番

かつて我孫子が北の鎌倉と言われた大正時代、白樺派の文人達は三樹荘へと続く天神坂をこよなく愛しました。白樺派の中心人物で、民芸運動提唱者の柳宗悦と声楽家の兼子夫人が住んでいた三樹荘跡は、石段を上りきった左側にあります。右側には柳の叔父である、柔道の父、嘉納治五郎の別荘跡があります。高台からは手賀沼の美しい風景が今も変わらず見下ろせます。

ロータリーの友事務局 ホームページ [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp) メールは [web@rotary-no-tomo.jp](mailto:web@rotary-no-tomo.jp)

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。